

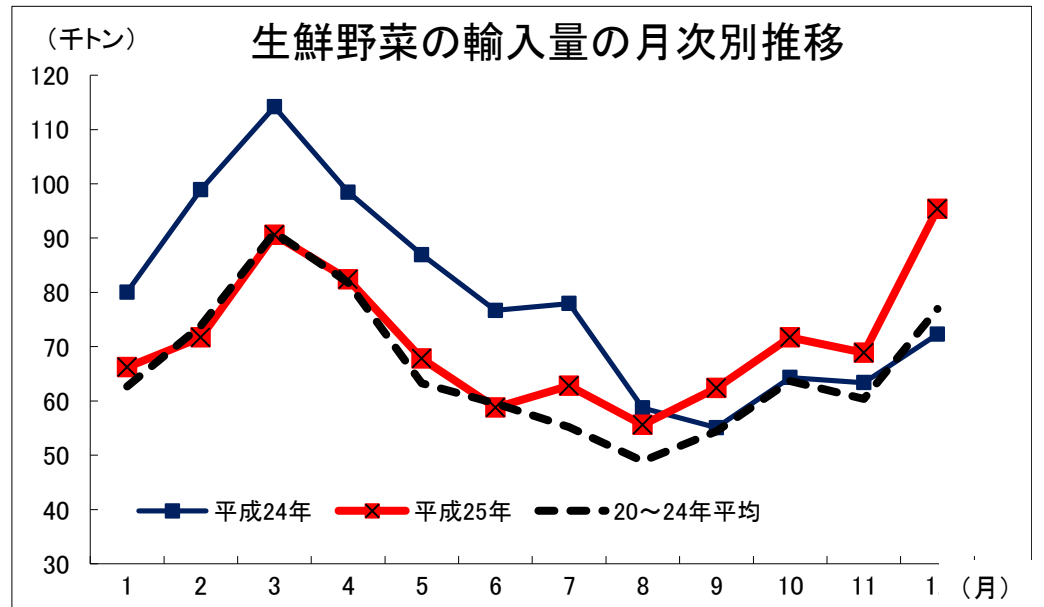
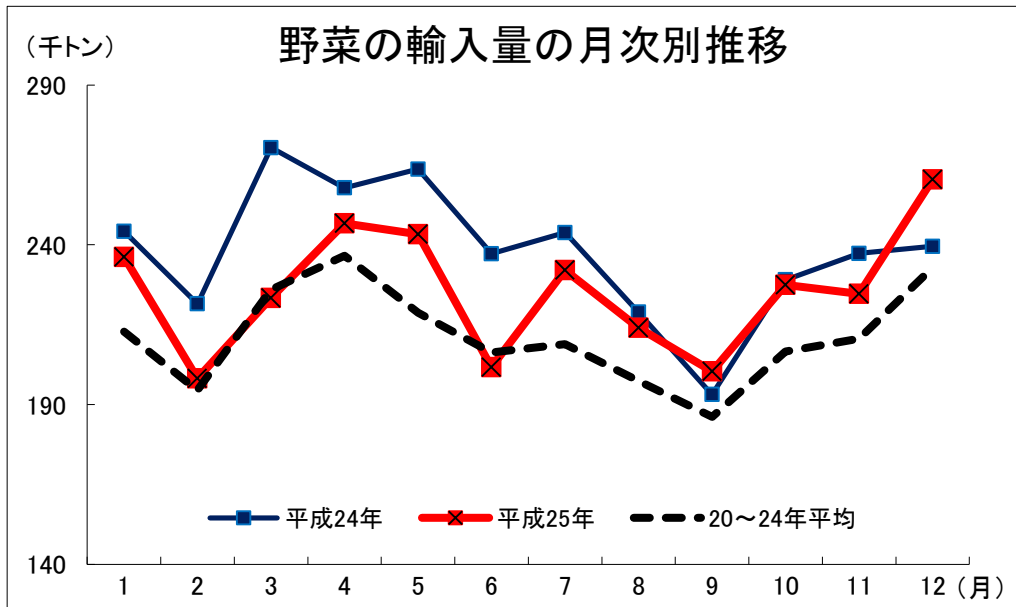
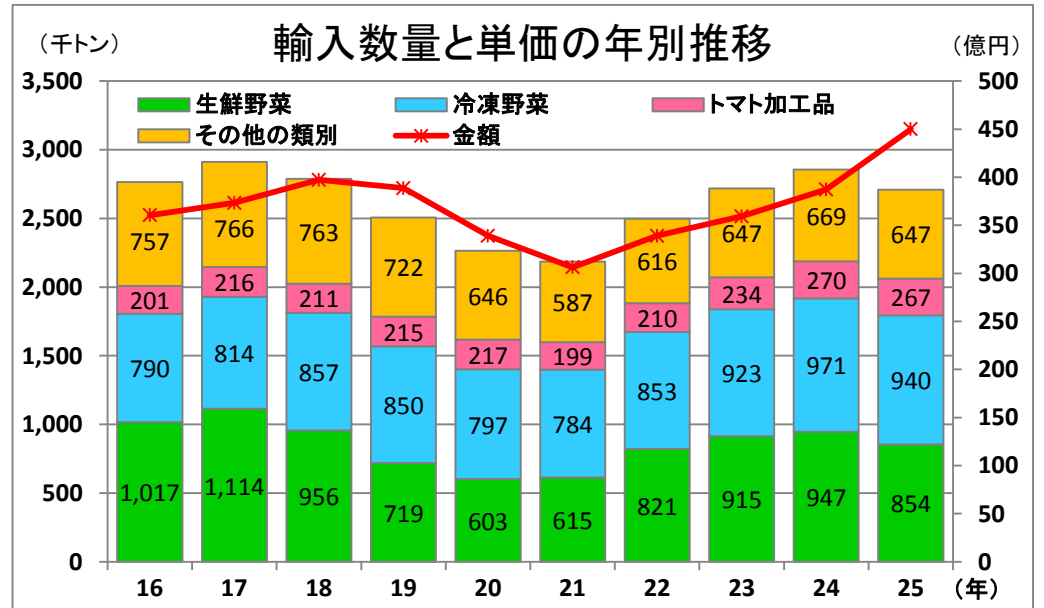
最近の野菜の輸入動向について

出典資料

資料：ベジ探、原資料：財務省「貿易統計」

1 全体の輸入量の動向

- 平成25年の野菜全体の輸入実績は、輸入数量が271万トンと過去10年間で5番目となったが、輸入金額は450億円と過去10年間で1番多くなった。
- 輸入量は、年初からの円安や上半期の国産野菜の豊作傾向等の影響により、4年ぶりの減少となった。輸入額は、円安の影響で輸入単価が全般的に上昇するなかで、特に輸入ウエイトの高い中国からの輸出単価の上昇の影響が作用しているとみられる。



2 品目別の輸入量状況

【生鮮野菜】

- ・ 平成 25 年の輸入量は前年比 90%の 854 千トンとなった。
- ・ 平成 24 年の 9 月から 25 年の 8 月まで 12 ヶ月連続で前年同月を下回っていた。これは、年初から円安基調であったこと、たまねぎの主要輸入先国の中国産が不作で単価が上昇し、輸入量が減少していたことが影響している。一方、下半期だけをみると前年比 106%の 417 千トンとなり、過去 5 か年で一番多い数量となった。品目別では、たまねぎ、キャベツ、レタスの増加がみられる。

【キャベツ】

- ・ 加工・業務向けとして周年で輸入されている。特に冬場の価格が高騰する場合に多く輸入される傾向があるが、平成 25 年は 11 月以降大幅に増加し、中国、韓国から 25 年 8 月から 26 年 1 月までで約 18.9 千トン輸入された。

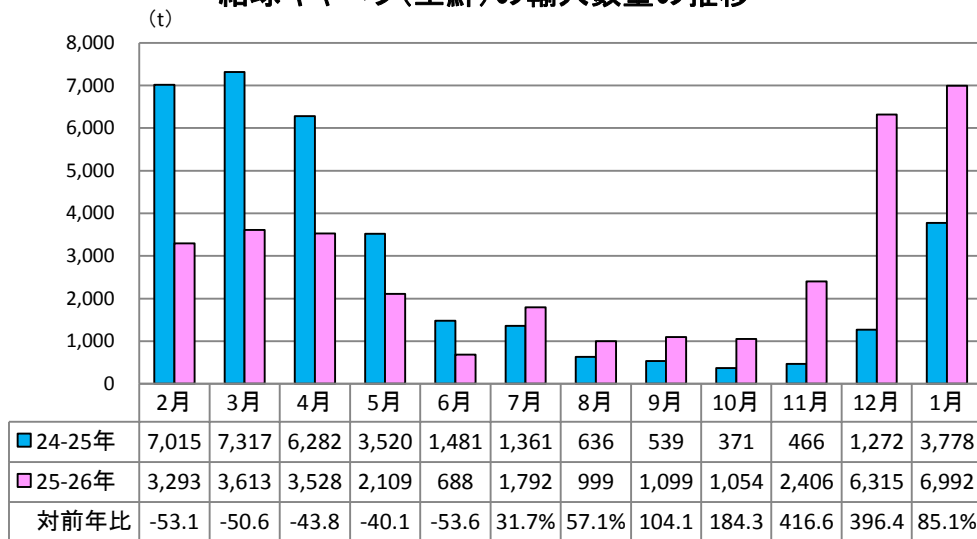
【たまねぎ】

- ・ 生食用及び加工・業務用に対応している品目である。平成 25 年は、前年の北海道産や府県産の豊作と中国の不作、単価上昇から輸入量は 8 月まで連続して対前年を下っていた。しかしながら、北海道産が生育期の少雨等の影響で小玉傾向となり不作であったこと、中国の作柄が良く単価が下落したことにより、9 月以降は前年を大きく上回る輸入量となった。25 年 9 月から 26 年 1 月までの輸入量は対前年同期比 147%の 169 千トンとなった。

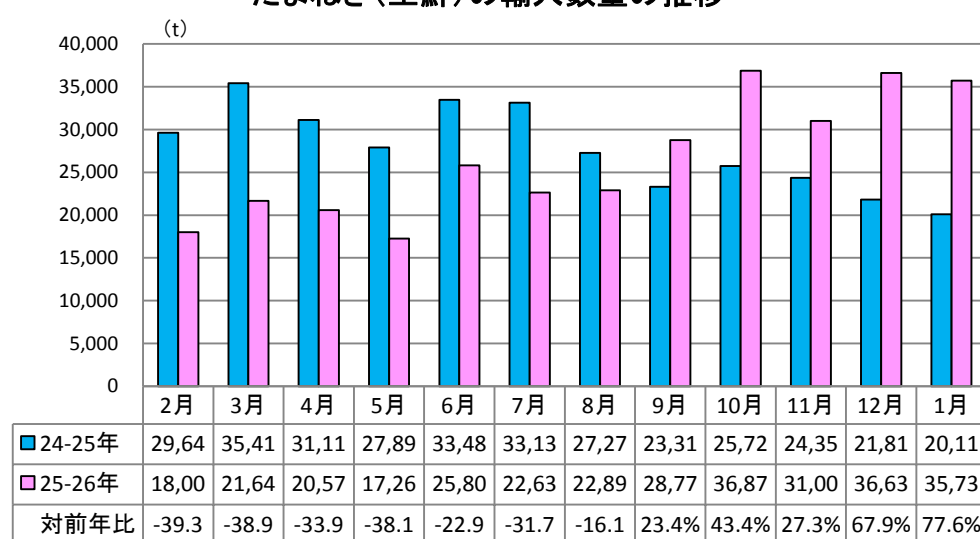
【レタス】

- ・ キャベツと同様に周年で輸入され、ファストフード等の加工・業務用需要の品目である。一昨年と昨年の冬場の国産の不作により 2 年連続で主として台湾から輸入されている。物流上のコールドチェーンが整い、品質が確保されていること等から、日本国内の不作に対する危険分散の観点もあり、輸入が定着化するような動きも見受けられる。

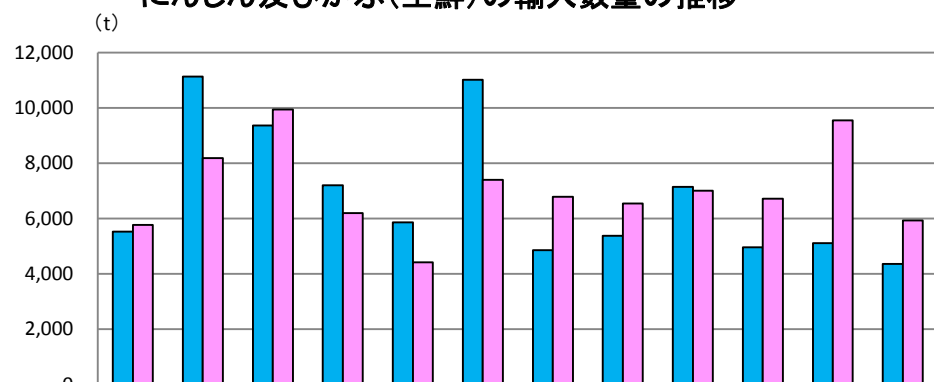
結球キャベツ(生鮮)の輸入数量の推移



たまねぎ(生鮮)の輸入数量の推移

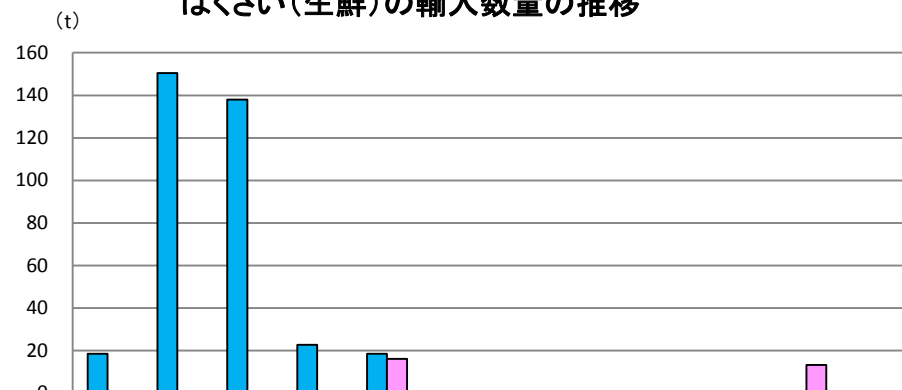


にんじん及びかぶ(生鮮)の輸入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 24-25年	5,527	11,113	9,365	7,209	5,862	11,020	4,849	5,373	7,149	4,959	5,111	4,358
■ 25-26年	5,767	8,185	9,945	6,200	4,410	7,403	6,789	6,545	7,004	6,720	9,555	5,934
対前年比	4.3%	-26.5	6.2%	-14.0	-24.8	-32.8	40.0%	21.8%	-2.0%	35.5%	87.0%	36.2%

はくさい(生鮮)の輸入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 24-25年	18	150	138	23	18	0	0	0	0	0	0	0
■ 25-26年	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	13	0
対前年比	-100.	-100.	-100.	-100.	-12.7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

レタス(生鮮)の輸入数量の推移



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
■ 24-25年	2,114	2,107	1,051	261	310	327	622	701	334	135	1,392	2,335
■ 25-26年	2,847	1,591	420	224	110	134	245	533	234	498	2,805	3,078
対前年比	34.7%	-24.5	-60.0	-14.3	-64.5	-59.2	-60.6	-23.9	-29.8	267.8	101.5	31.8%